

大祓詞 おおはらえのことば

意識

高天原にいらっしやる皇祖の神々のご命令を受けて、やおろづ八百万の神々が一同に集まり会議を行ったところ、あまてらすおのみかみ天照大御神の皇孫である瓊瓊杵尊にぎのみことは豊葦原乃瑞穗国を平和で安心できる国にして治めるという任務をとよあしはらのみづほのくに仰せつかりました。しかし豊蘆原乃瑞穗国の中には、神々の意向に従わない神たちがいたので、にぎのみこと瓊瓊杵尊は服従するかどうかを問いただし、従わない場合は討伐し、その地から追い払うことをしたところ、ものをいう岩石や木々、草の葉たちさえも静まるようになり、ようやく瓊瓊杵尊は天上の玉座を出発し、天に幾重にも重なる雲をかき分け押し分け、高天原から地上へと降り立ちました。にぎのみこと瓊瓊杵尊は、皇祖の神々から託された四方の国土と、その中心となる大和の国の土地を平和な都と定められました。地中深くの岩盤にどっしりとした宮殿の太い柱を立て、屋根の上には天空に届くような千木ちぎを飾り付けられ、こうして皇孫は莊嚴で立派な宮殿をお建てになり、それが天の日差しを遮り日陰となって地上の民は守られ、平安な大和の国の統治がはじまったのでした。

しかし国の平和な統治が始まると、自然に生まれてくる人々によって、国土の中には思いがけず罪を犯してしまう人たちも現れます。たとえ

ば大切ないのちを奪うような行いや、地上の秩序を乱すようなことをする人たちです。その数は時が経つにつれて増えていきました。このような罪が現れたときには、天上の神々の神聖な儀式にならない、金属のように固い木を根元と先端を切り、中ほどを編んで祭壇を作り、その上に祓えものを置きます。そして清らかな菅麻すがそを針で細かく裂いて結わえ、それを祓い串のようにして天津祝詞あまつのりごとを唱えるのです。

このように祝詞を唱えたならば、天上の神々は天の門を押し開いて、幾重にも重なった雲を押し分けて祈りごとを聞くでしょう。また地上の神々は高い山や低い山の頂上にお登りになられて、山々にたちこめる雲や霧をかき払って願いごとを聞くでしょう。神々が聞き届けてくださったならば国中の罪という罪はすべて消えてなくなります。それはまるで科戸しなとの風が天に重なる雲を吹きはらい、また朝夕に立ちこめる霧を吹きはらうように。また港に停まっていた大きな船が、船首と船尾につながれていた縄を解き放たれ、大海原に押し放たれるように。そして遠い彼方まで繁っていた木々の根元を、焼いて鍛えた鋭利な鎌で残すところなく薙ぎ掃うように。後に残る罪は一切あるまいと祓い清められることでしょう。

そしてこの祓い清められたすべての罪穢れは、高い山低い山の頂から

谷間を下って落ちてくる急流の瀬に住んでいる瀬織津比売せをりつひめという神様が大海原まで持って行ってくださいます。このように大海に持ち出されたならば、大海の遠い沖合で、あちこちから行き交わる潮流が幾重にも渦巻く中に住んでおられる速開都比売はやあきつひめという神様が飲み込んで、海の底に沈めてくれるでしょう。

このように飲み込んで沈められたものを、根の国底の国に向かって吹き放ってくださるのが、黄泉の国に通じる門にいらつしやる息吹戸主こふきどぬしという神様です。そしてその吐息を、根の国底の国に住んでおられます速佐須良比売はやさすらひめという神様が、何処とも知れない遠い場所まで持ち去ってくれます。このようにして神々があらゆる罪穢れつみけがをすべて消し去ってくださるならば、今日からこの世の罪という罪は一切なくなり、人々の心は清められ、苦しみからも救われるでしょう。

そのことを天上界の神様、地上界の神様、八百万の神々にお聞き届けいただき、どうかお祓いください、お清め下さいとお願いしまして、謹んでお祈り申し上げます。